

友松会だより

平成 25 年度 新春のつどい報告号

発行責任者 会長 芦川 弘

平成 26 年 2 月 4 日 発行

新春のつどい

平成 26 年 1 月 25 日 土曜日

会場 ローズホテル 横浜



芦川友松会会長新年の挨拶 (要旨)

新年あけましておめでとうございます。

今年は新しい年明けとともに何か新しいものが生まれる期待感があふれてきます。本年も宜しくお願い申し上げます。

本日は、国大教育人間科学部教授馬場裕先生をはじめ、富丘会副理事長宮田芳文様、工学部同窓会連合相談役山口惇様、その他大勢の方々のご臨席を賜り、心よりお礼を申し上げます。そしてさらに、会員の方が 127 名のご出席をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。(中略)

昨年は県央地区の皆様方のご尽力で、相模原市を会場に 200 人の会員にご出席いただき、総会を開催することが出来ました。(中略)

昨年の第 8 回 HCD は台風の到来と最悪の状況になってしまいました。しかし、それにも拘わらず 1,000 人余りの OB・会員・学生の方々に参加していただきました。当日はさまざまな講演・研修・イベントなどが意欲的に行われました。友松会としては「豊かな教育を語る会」を開催し、多くの

新春のつどい次第

- ・開会の言葉
- ・新年の挨拶
- ・お祝いの言葉
- ・来賓紹介
- ・斉唱 1 月 1 日
- ・鏡開き
- ・乾杯

< 懇談 >

- ・若手会員紹介
- ・先輩から一言
- ・支部長会員紹介
- ・学生歌
- ・歌・ふるさと
- ・万歳三唱
- ・閉会の言葉

参加者を得て活発な意見交換が行われました。

本会は「友松会の基盤強化の具体化と大学とのさらなる連携を図ろう」というスローガンを掲げております。今後も一段と本部・支部活動への積極的な参加と会員同士の絆を深めること、大学との連携強化と貢献に積極的にかかわることをねらいに活動していきたいと思っております。(中略)

さらに、本年度の HCD は友松会が当番になります。早々に組織を立ち上げ準備を開始しなければなりません。また今年度は、3 年前から検討してきました「YNU 校友会」構想が実現の運びとなりそうです。現在実施に向けた具体的な方策について最終的な検討が行なわれ、秋の発足を目指しています。各支部活動は、総会や懇親会を開催し、会員同士の世代を超えた交流は素晴らしいことです。しかし、会費納入の減少、会員の高齢化、新会員の減少などでここ数年同窓会費納入会員が激減していますので検討していきます。

最後になりましたが、友松会会員の皆様のご健康とご多幸を心より祈念し、本日ご出席の皆様方に感謝申し上げます。

= 来賓代表あいさつ =

馬場教育人間科学部教授



国大は、再来年位に、新しく教職大学院が確立される予定です。現職の先生方の補習することが前提です。

今、教育問題が複雑化し、教員構成が変わってきています。教員養成に力を入れ、学生の多くが教員になるよう努力していきます。



宮田富丘会副理事長

富丘会の就職相談では、学生と卒業生とのパイプをどうしたら力強いものにできるか、どのように応援したらよいかを考え

相談に対処しています。

校友会の団結と発展を願い、他の同窓会と力を合わせて、国大そのものを良くしていくよう努力をしていきたいと考えています。



= 懇談会 =

恒例の鏡開きの後、120 余名の出席者の下、懇談会が開かれた。



先ず、芦川会長が 2 人の若手会員を紹介した。会長の「日々どんな努力をしていますか」という質問に対し、伊藤寿美礼先生（平成 25 年卒 1 年目）は「笑顔を武器にがんばっています」。また

道越愛美先生（平成 23 年卒 3 年目）は「大学時代の陸上競技の経験を生かしつつ、子どもたちの直の反応を楽しんでいます」と語った。

続いて、大先輩の梅田衛氏（昭和 18 年卒）は、「長寿の秘訣は」の問いに「素直に生きてきました」と答えていた。



支部紹介では、川崎支部を皮切りに、横浜支部まで順次行われた。



15 時 20 分ころ、『万歳三唱』で懇談会は、恙なく会を閉じた。